



すきっぷすまいる通信は、ICC(株)と関わりを持っていただいている方にお送りしているおたよりです

ドラッカー 名言集

名言から
ドラッカーを
学ぼう!!!

顧客にとっての価値を
想像してはならない。
直に聞かなければなら
ない。

令和元年、新しい時代が始まりました。皆さま、いかがお過ごしでしょうか。
「中欧やカナダ西部、米国の氷河は今世紀後半のうちにほぼ消失するとの見通しが、新たな研究で明らかになった」と、英科学誌ネイチャーが論文を発表したそうです。氷河が解けること
によって温暖化が進むだけではなく、山々の地盤が不安定になつたり、水不足が懸念されます。
環境問題に対し、他人事ではなく、一人ひとりが考えて行動する時代の到来ですね。

ドラッカーと環境経営

すがのコラム
第5回

強みの上に強みを築く *Yellow*

「われわれの事業は何かを問うことはトップマネジメントの責任である」(『マネジメント』)とドラッカーさんは説いています。会社の置かれている事業環境を調べ、社会における会社の位置と役割を確認し、貢献することで社会から認められ、事業が機能していきます。

ところが社会における会社の強みを自分たちだけで見出すのは難しく、社員のもつ能力やその能力の発揮の仕方、影響の与え方はまちまちで、社員それぞれが社会に貢献していると考えています。個々の能力として社会には貢献しているものの、その能力は各人が当たりまえにできてしまうものと思われるために、本人がその能力を強みと思っていないケースもあります。

ドラッカーさんは事業を考えると、「強み(エクセレンス)から考えよ」と強調します。本人も気づいてない強みを組織の強みとして昇華するために、お互いから見た相手の「強み」を知らせ合い、それぞれの「強み」を持ち寄って、小さな資源(時間・場所・材料・エネルギー・労力等)で、より大きな成果を生む話し合いの時間を設けよと説きます。

小さな資源でより大きな成果をもたらす事業を行うことは、会社の強みの上に強みを築くと同時に、エネルギーや資源の利用効率を向上させ、地球環境にも負荷の少ない成果をもたらすこととなります。